在宅取組型（中学校）

学 校 名 等	海津市立平田中学校
実 施 日 時	冬休み期間中
会 場	各家庭
参 加 人 数	88家庭
学習課題（分野）	家族で防災会議（命の大切さ・家族の大切さ）
運営者の願い	局地的豪雨や台風、地震等による停電や断水等の災害が近年岐阜県でも起こっている。このような災害に備え、備蓄品の整備をするとともに、災害時の家族との連絡のとり方、避難場所の確認をすることを通して、家族で防災について意識を高めてほしい。

学 習 の 内 容

<テーマ>

自然災害への備え（地震・局地的豪雨・台風）、防災意識を高める。

<取組の流れ>

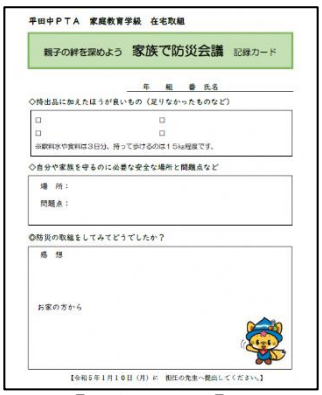
平田中学校は、2次避難所ということで、災害時の備蓄品が学校に整備されていない。このことから、PTAでは、1年生が入学したときに、学校内備蓄品として、一人一人に水500ml2本、カンパン1缶を準備し、その他必要なものを個々で準備してもらい備蓄している。しかし、近年の局地的豪雨等での災害は、いつ海津市で起こってもおかしくない。そこで、岐阜県防災ガイドブックをもとに、学校以外の各家庭での備蓄品の整備や災害時の家族の連絡のとり方や避難場所の確認を通して、防災について意識を高める取組を行った。

<取組①>

①非常持出品（備蓄品）のチェック表を配布。
②家庭の備蓄品をチェック表にチェックしながら確認。
③持ち物の重さや大きさの確認。
（3日分の飲料水、食料 15kg程度）
④加えた方がよいものや足りないものを書き出す。

<取組②>

①ハザードマップ（QRコード）、災害避難カード、いつ何をするのかカードを配布。
②ハザードマップをもとに、自宅のまわりで起きる災害を調べる。
③災害避難カードに記入をしながら、場所、経路、移動手段、移動時間等を確認する。
④避難レベル（避難情報）に合わせて、何をするのか、どういう行動を起こすのかを考える。
〇記録カードに、持出品の足りなかったものや避難場所の問題点など、感想を書いて提出する。



【記録カード】

<生徒・保護者の感想から>

・家族で再確認できるよい機会になった。
・情報を見ていて分かっているつもりでも実際に話し合ってみると、何が必要でどこに安全な場所があるかなど、いろいろと考えることがあった。
・防災バックの中を確認すると、案外、家族の人数分に足りない、消費期限が切れている、重すぎるなど、災害に対する備えができていないことに気づいた。
・ハザードマップを確認して、揖斐川、長良川それぞれ氾濫時の浸水の程度が大きく違うことが分かった。災害によってとるべき行動を考えていかなければいけないと思った。
・以前に決めていたことを忘れてしまっていることがあったので、家族で話し合えてよかった。

手軽にチェックができるように

・非常持出品チェック表、ハザードマップ、災害避難カード、いつ何をするかのチェック表など、家族で話したりチェックしたりするときに、気軽に書き込めるシートを準備しました。
・プリント類が多くならないように、URL（岐阜県防災ガイドブック）や QR コードを添付して、必要なものを選んで閲覧できるようにしました

在宅取組を通して育まれた家族の絆

・取組①、②を通して、家族の防災意識を高めることができました。非常持出品や避難場所について話し合うこと、家族で一緒にチェックをすることを通して、家族のコミュニケーションやふれあいを深めることができました。
・冬休み期間中の都合のよい日に実践できるようにしたことで、各家庭の状況に応じて、無理のない取組になりました。